

1

1 県

2 急ぐ

3 守り

4 豆

5 茶柱

6 悲鳴

2

1 ① ウ

2 ② イ

3 ③ 「安堵」も可

4 ④ エ

5 ⑤ エ

6 ⑥ ア

2 A

A か

B け

C め

3

3 安心

4 エ

5 I ひとり

II 友だち

6 お母さんが

引越しの

7 卒い

8 (記述題)

9 もちろん

1 A カ

B ケ

C シ

2 カビには動

2

8 爽子に新しい友だちができた

(同意可)

6 I 自由水

II エ

7 イ

8 地球上

4 I 外的抵抗

5 II したたかに

3 I 毒

II 栄養の豊富

配点	
1・2・3	各2点×13=26点
2	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1

- 1 「目」の部分を「日」と書かないように注意しよう。
- 2 四画めはつきださないように、「ヨ」のように書く。
- 3 「守」は「まも(る)」「シュ」以外にも、「子守」と書いて「こもり」と読むこともある。
- 4 「鳩が豆鉄砲をくったよう」とは「突然のことにびっくりして、目を見張ること」をいう。
- 5 昔から、茶柱が立つといいことがあるといわれ、縁起のよいこととされてきた。
- 6 「悲鳴」を「非鳴」のように書かないようにしよう。普段の漢字の学習から、意味を意識していこう。

2

- 1 ①は「転入一日目」、②は「口に運ぶ」、⑥は「報告」ということばが手がかりになるだろう。ちなみに、エは「怒っている」「不平や不満がある」といったマイナスの様子を表している。
- 2 国語の勉強や読書を進めていくなかで、知らないことばが出てきたときは、そのままにするのではなく、調べるなどしてほしい。そうすることでことばの知識が増えていく。Bの「そっけない」は「素っ気ない」と書き、「思いやりがない」「冷たく、温かさが感じられない」という意味である。
- 3 文章を読み進めていくと、引越しの原因は凜子にあるということばはつかめただろう。しかし、凜子にいったいどういうことがあって、転校することになったのかをつかむのは難しかったかもしれない。「私はもう二度と同じ過ちを繰り返すわけにはいかない。友だちを作って、楽しい中学校生活を送らないといけない」ということばなどから、凜子には友だちがいなかったということがイメージできるだろう。そんな凜子の「転入一日目」に「仲良くなった子」がいたと聞けば、どういう気持ちになるかを考えよう。ちなみに「安心」の反対語は「不安」「心配」である。
- 4 引越しをすることをいやがっていた爽子の目の前で、凜子が「みんな、いいひとだった」「今日、仲良くなった子が」などと話しているのである。——線④のあとのように、不機嫌になるのもやむをえないだろう。
- 5 問3と非常に関係の深い問題である。この問題を考えていく中で、問3の答えにたどりついたものもいたかもしれない。このように、ある問題を考えていくなかで、別の問題の答えにたどりつくことは十分にありえることである。凜子には友だちがいなくて孤立していたのだが、それは実は凜子にも大いに原因があったのである。(凜子が言われたであろう)『ひとりじゃ生きていけないのよ』ということばからわかるように、凜子は「ひとり」を好んだのである。その結果、まわりの「友だち」を遠ざけてしまったのである。
- 6 「私のことを許してくれない」と凜子が思うということは、爽子が凜子に怒りを向けてきたり、逆に無関心であったりするからではないかと考えて、問いの条件に合う形でさがそう。
- 7 ⑤の一文が大きな手がかりになるだろう。凜子は「この町でも爽子にとって大事な友だちができますように」と願っているが、爽子は「ここを離れ」ず、「ずっと仲のよかった友だち」と「一緒に今の小学校を卒業したい」と願っていたのである。
- 8 爽子が新しい友だちを作れたとしても、また凜子自身が友だちを作れずにいると転校させられるかもしれない、そうになると、爽子に再び友だちとの別れというつらい経験させることになってしまうことをおそれているのである。
- 9 「そのやさしさは、裏を返せば」とあるので、やさしさが凜子に向けられている部分をさがせばよい。脱文補充の問題では、もどすべき一文にこそ手がかりがあることが多いということをおぼえておこう。

3

- 1 A「カット」とは、切ること。Aをふくむ「途中で〜しても〜成長を続けます」という一文から考えられる。B「ケース」とは、場合。C「シンプル」とは、単純なさま。
- 2 通読する際に、段落ごとの話題を意識しながら読み進めるようにしよう。また、問いで聞かれていることが、本文のどのあたりで書かれているかもきちんと確認できるようにしよう。「栄養の吸収」については本文の三段落めで説明されていた。
- 3 ここで聞かれている「能力」は——線②の直後で説明されていた。どういふものを避けるのかは容易だっただろう。その「能力」があったからこそ、カビは生き残ることができたのである。ここよりあとを読み進めると「生き抜くことができる」という表現が見つかる。その段落内に、「成長して行く」方向が書かれてあった。
- 4 線③の直後に、細胞の壁が厚くなって「外的刺激に抵抗力をもつ植物の種のような働き」をすると書かれてあった。
- 5 「したたかに(したたかだ)」とは、強くて手ごわいさま。「どこに食べものがあるか」について、「どこに毒があるかわかる」「栄養の豊富にある方向へと成長して行く」「外的刺激に抵抗力をもつ」といった能力をもつカビにぴったりの表現である。
- 6 I 線⑤よりあとの「食品中には」からはじまる段落に、「カビにとって必要なのは、自由水なのです」と書かれている。II それぞれの選択肢と本文を照らし合わせながら解こう。「食品中には」からはじまる段落に「結合水はカビにとって必要な酵素や栄養の媒体にはなりません。一方、自由水は酵素や栄養の媒体としてカビが利用することができます」とある。
- 7 ⑥をふくむ一文の次の一文に「これらはカビなどの微生物の増殖を抑えているのです」とあることから、この方法は「食品にカビが生えないようにする方法II食品を長く食べられる方法」であることがわかる。ウは一見やさそうだが、⑥にあてはめて一文を読むとおかしいことがわかる。
- 8 本文前半は「カビはどのように成長して行くか」について、後半は「カビの発育に必要な水」について書かれていた。通読する際に、話題の移り変わりを意識するようにしよう。